

次年度（令和7年度）に向けた改善方策

学校関係者評価委員会よりいただいた3つの提言に対し、以下のとおり「(1)数値による指標」「(2)改善方策」を立てました。

【提言1】6年間を通して、なりたい自分や生き方について考える授業をキャリア教育を通して行い、保護者に分かりやすく伝える。

(1) 数値による指標

保護者アンケート「先生は、子どもの生き方や将来のことについて考える授業をしている」「学校は、子どもに目標をもたせ、その実現のために支援している」を60%以上にする。

(2) 改善方策

- ・引き続き「キャリア・パスポート」を活用し、キャリア形成に関わる児童の成長を保護者にも評価してもらう。
- ・東京都産業局の起業家プログラムを活用し、児童が他者と協働しながら新しい価値を創造する力や、人生の目標を考え、その実現のために計画的に努力しようとする実践力を育成し、取組の様子を保護者に発信する。

【提言2】将来に向けて、中学校を見据えた学習方法、自ら学ぶ姿勢の育成のために、家庭学習や授業の方法を改善、工夫する。

(1) 数値による指標

児童アンケート「家庭でe-ラーニングでの学習をしている」を70%以上にする。

保護者アンケート「子どもは家庭で自主的に勉強している」を65%以上にする。

(2) 改善方策

- ・タブレット端末で行う「キュビナ」の家庭学習での活用をさらに推進する。
- ・子どもの自ら学ぶ意欲が高まるよう、校内研修を通してICTの効果的な活用や「個別最適な学び」「協働的な学び」に対する教員の理解を高める。

【提言3】交通ルールの徹底として、特に危険と思われることについて今まで以上に丁寧に指導し、実行させる。

(1) 数値による指標

児童アンケート「登下校のきまりや交通ルールを守っている」を95%以上にする。

地域アンケート「安全性を高めようと、地域と協力している」「学校と保護者・地域が協力して防犯・交通安全に取り組んでいる」を85%以上にする。

(2) 改善方策

- ・成城警察署や八幡山駐在所の協力により、交通安全教室や警察官による講話、下校の見守りを行い、年間を通じて交通安全に対する意識と態度を育む。
- ・学校での交通安全の取組や、地域と連携した災害に対する取組についての活動報告をホームページ、学校便りを活用して行う。